

# 創刊のごあいさつ

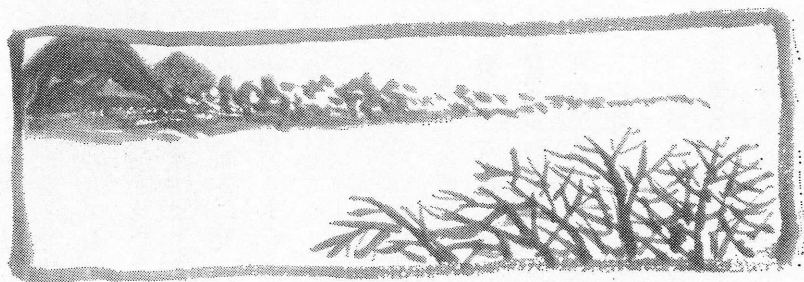
佛教社会事業研究所長

秦 隆 真

昭和五十年といえは元号はじまって以来かつて無かった長い世代であります。そしてこの一九七五年はまた今世紀もあと四分の一という区切りの年でもあります。

ところでこの五十年間を考えると、実に大きな起伏の波がありました。そしてまさに今や「日本沈没」がいわれるほどに、われわれの船は進路を見失い、逆まく大浪にのみこまれそうな危機に直面しているとも考えられます。

しかし、またこの危機こそ、転進の好機といえなくはないと思います。ふりかえってみるとこうした大浪が襲った時機がいくたびかありましたが、われわれの先達はその都度、正しく方向を指示して必死に乗りきってまいりました。



しかもそこには佛教社会事業の偉大さが發揮されていたと思うのであります。

今日、幻のような表層的繁栄の明るさが薄れ、暗雲が低迷するとなると、ひとびとは忽ちに動顛して危険を倍加しそうになり、しかもその被害はいつものながら弱者にしわよせられております。今こそすべてのひとびとが力をあわせてこの危機を乗りこえなければならぬときでありますし、また、その努力を傾けていられる方々も少くはありません。それにしても、伝統をうけつぐわれわれとしては、徒らなる偷安はゆるさるべきではありません。そこにこそ仏教社会事業の使命があるのですから。

学理は実践に、実践はまた学理に相互に証されねばなりません。そういう建前から、本研究所では各位のご協力のもと、微力ながら「佛教福祉」を創刊して、同行はもとより、ひろく社会各界のご参考にご供するとともに、相たずさえて精進したいと念願するものであります。この上の支援をお願い申しあげて、創刊のごあいさついたします。

